

中国の都市河川再生に対する住民意識の考察—上海市蘇州河を事例として—

名古屋産業大学 正会員 加藤哲男
○ 名古屋産業大学大学院 宣 孜岑

1. はじめに

1998 年から上海市蘇州河（図-1）整備工事が着工され、それによって水質が改善され、蘇州河も環境の美しい、住民の憩いの場としての都市の河川に生まれ変わってきた。だが、これらの改善された河川環境を守るため、市民たちの環境保全に関する意識が欠かせない重要な要素である。

本研究は上海市蘇州河を事例にして、住民の環境意識調査を行い、上海に再生された都市河川に対する住民の評価意識および河川環境を保全していくための留意点を明らかにすることを目的とする。

2. 意識調査の概要

(1) 調査の方法

蘇州河沿岸 3 つの地区（長寧区、静安区、黄浦区）の住民、および蘇州河沿岸以外の地区（閘北区、虹口区、宝山区、楊浦区、浦東新区）（図-2）の住民を対象に、2008 年 8 月末から 9 月に意識調査を行った。意識調査は、印刷された調査票を居民委員会の協力を得て所属住民に直接配布、回収する方法と、知人により配布、回収する方法を採用した。

居民委員会による調査（長寧区、黄浦区、閘北区 3 区）では、337 票の配布数に対し 330 票が回収され、回収率は 98%であった。これに対し、知人による調査（静安区、虹口区、宝山区、楊浦区、浦東新区 5 区）では、263 票の配布票数に対し 241 票が回収され、回収率は 92%であった。

「居民委員会」は 5～9 人の「主任」、「副主任」、および「委員」で構成されている。日本の「町内会」に類似したものであるが、法律で設置や役割などが規定されている点、住民のすべてがいずれかの居民委員会に属さなければならない点、行政の末端組織「街道弁事処」が指導する立場にある点で大きく異なる。

(2) 調査項目

再生された蘇州河に対して、住民はどのような関心をもっているのかを把握するため、以下の項目を設定した。



図-1 上海市蘇州河

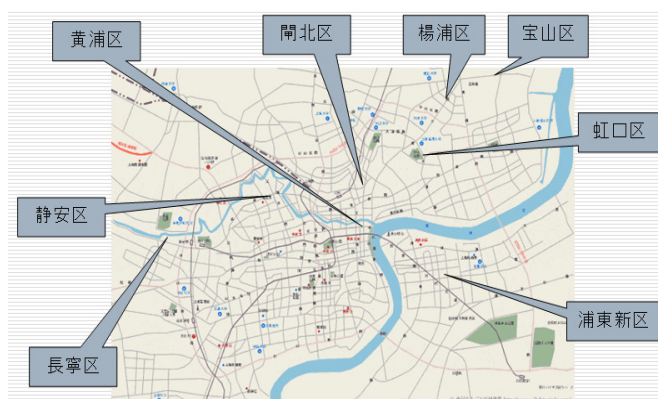


図-2 調査地区位置図

- ① 河川敷、水辺公園の利用状況
- ② 優先すべき保全政策
- ③ 保全活動の実行状況
- ④ これからの保全活動の参加頻度意向
- ⑤ これからの保全活動の参加条件
- ⑥ 保全活動の参加経験と参加意向
- ⑦ 日常生活における環境配慮行動の実態

3. 調査結果

(1) 沿岸と非沿岸住民の河川敷、水辺公園の利用状況

「何をするために行くことが多いですか」（二択回答）という質問に対し、「散歩」、「スポーツ」、「イベント」、「朝の運動」の 4 つの利用方法では非沿岸住民より沿岸住民のほうが河川敷、水辺公園を多く利用していることが判った。（図-3）美しい水辺環境を作ると同時に、それを利用しやすくするための環境づくりも重要だと考えられる。

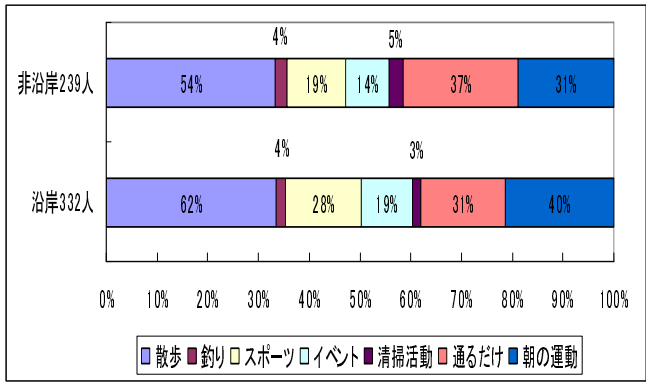


図-3 河川敷、水辺公園の利用状況

(2) 参加経験と保全政策の関係

表-1は保全活動の参加経験別に保全政策の優先順位を集計したものである。行政に関する「資金投入」、「義務教育の環境教育」、「環境保護法規制」、「行政広報活動」の政策はすべて上位5位に含まれた。これは「まず行政に頼る」という考えがまだ多くの人が持っているという実情が原因だと思われる。

「参加した経験はないがぜひやってみたい」、「参加した経験は無いが、みんなやるなら自分もやりたい」と考えている人では「行政広報活動」が3位になっているという点から見ると、保全活動の経験の無い人が、保全活動についての行政からの情報提供を求める傾向があると考えられる。

表-1 参加経験と保全政策の関係

重み付け評価	経験有り今はしない		経験有り今も継続		経験無しやりたい		経験無しみんなとなら		経験無しやりたくない	
行政による資金投入	7.47	1	8.01	1	7.30	1	7.70	1	6.39	1
義務教育の環境教育	6.09	3	6.56	2	6.19	2	5.50	4	5.96	2
環境保護法規制	6.56	2	6.27	3	5.70	4	5.83	2	5.09	5
市民保全活動	4.00	7	4.42	6	3.94	7	4.34	6	3.48	8
NPO活動	1.91	9	3.28	8	2.77	9	3.13	8	1.83	9
行政広報活動	4.99	5	5.37	4	6.03	3	5.65	3	5.74	4
企業自ら環境改善	4.41	6	4.45	5	5.01	5	4.34	7	5.09	6
個人レベル活動	5.20	4	3.99	7	4.68	6	4.96	5	5.91	3
企業社会貢献	3.17	8	2.76	9	2.91	8	2.94	9	4.00	7

(3) 地区別の保全活動実態

図-4は沿岸地区（長寧区、静安区、黄浦区）と非沿岸地区（閘北区、虹口区、宝山区、楊浦区、浦東新区）別の保全活動実態の集計である。沿岸地区では黄浦区がほかの2地区に比べ、保全活動が充実していると考えられる。非沿岸地区では宝山区と楊浦区がほかの地区より保全活動の実施率が低いが、「宣伝イベント」という項目が高い反面、清掃活動などの現場活動はあまり行われていないことから、まず宣伝活動から力を入れようとしているものと考えられる。

これは各地区の人文、歴史、都市整備の進展の違いなどの要素から、各地区の保全活動の実施にも影響を与えていることが原因の一つだと思われる。

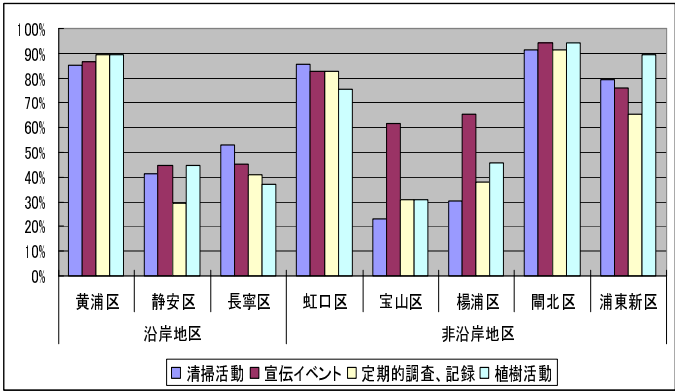


図-4 地区別保全活動の実施状況

(4) 日常生活における環境配慮行動実態と参加頻度意向

「どの程度の参加頻度が可能ですか」という質問に対する単純集計の結果、571人のうち「毎日」が7人、「週3〜6回」が45人、「週1〜2回」が187人、「月2〜3回」が200人、「月1回以下」が123人、「年1回以下」が8人であった。

表-2は保全活動の参加頻度意向と日常生活における環境配慮行動の優先順位の関係を集計したものである。中国政府は2008年6月からレジ袋有料化を実施して以来、マイバックで買い物する市民が増えたことが「マイバック持つ」を1位とした原因だと思われる。

参加頻度意向によって環境配慮行動の優先順位に著しい差異はみられないものの、「洗濯剤をなるべく少なめに使う」や「油を直接水道に流さない」といった水質に関する行動については参加頻度意向と多少関連性が窺える半面、「節水グッズを利用する」や「蛇口を開けっ放しにしない」といった節水に関する行動については、参加頻度意向に関わらず優先順位が低いことがわかった。

表-2 参加頻度意向と環境配慮行動の関係

	毎日 7人	週3〜6回 45人	週1〜2回 187人	月2〜3回 200人	月1回以下 123人	年1回以下 8人
使いきり商品買わない	2	2	2	2	2	10
マイバック持つ	1	1	1	1	1	1
ゴミ分別する	5	4	3	3	3	8
洗剤を少なめに使用	4	3	7	6	11	12
油を水道に流さない	3	5	4	5	8	3
公共交通機関を利用する	6	6	6	7	4	7
冷暖房の使用を控えめに	12	9	9	9	6	5
資源回収に協力	10	8	10	9	7	4
植物を増やす	7	7	5	4	5	6
お風呂の水再利用	9	10	8	8	9	9
省エネ商品を選ぶ	8	11	12	10	10	2
節水グッズを利用する	11	12	11	11	12	13
蛇口を開けっ放しにしない	13	13	13	12	13	11